

資産運用レポート：配当生活（2019年版）

1 はじめに

隠れた名著『投資のプロたち』より引用します。

これまで、市場では配当は年5%程度で伸びてきた。言い換えるなら、投資家の22年後の配当は3倍になっている。

配当が7~8%伸びる会社に投資すれば、そのポートフォリオの配当は16年後で3倍になる。これはSP500の平均的銘柄より6年早い。

さらに配当の伸びが10%に増加すれば（フォックス社の目標であるが）、配当はちょうど12年後に3倍になるであろう。

つまり、配当利回りが4%という質の高い株式を選べば、12年後には配当利回りが12%になるポートフォリオを持つことになるであろう。

不動産投資では「家賃収入が生活費を上回ること」がひとつの目標とされています。そうなれば、いつでもサラリーマンを辞めることができるからです。

一方、株式投資においては、不動産投資のような明確な目標は存在しません。巷では「億り人」と称される金融資産1億円を目指している投資家も見受けられるようですが、株でいくら稼げるかは相場次第であり、いったん1億円を達成しても一生安泰ではないのです。

配当で暮らそうにも、株の配当利回りはせいぜい3~4%程度。やり方次第で10%を超える利回りを得られる不動産投資には到底及びません。

私自身も生活を安定させるために、いずれは不動産投資を併用せざるを得ないのではないかと思ったことが一度や二度ではありません。もっとも不動産に関してはズブの素人です。打診買いのできる株と異なり、一物件当たりの投資額もそれなりに必要で、失敗した場合の授業料が高くなります。

それでも、隣の芝生は青く見えるものです。悠々自適の生活を送っている旧知の不動産投資家と顔を合わせるたび「株ではなく、不動産投資にしておけば良かったかな」という後悔の念が混じった複雑な気持ちになりました。しかし株には、不動産にないメリットがあるのです。

それは、良い会社は毎年のように配当を増やすことです。築年数を経るにつれて、家賃の引き下げを迫られたり、修繕費用の増えていく不動産と対照的です。「やっぱり株だ」と不動産に傾きかけていた気持ちが戻ります。